

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21世紀を力強く生き抜く、強くて思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

【チーム翔南として教育活動に取り組む】

- 1 確かな学力を携えて、自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
- 2 グローバルな視点からの情報収集、分析力を高め、チャレンジ精神を育む。
- 3 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
- 4 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識、多様性、協働性）を育み未来の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

1 地域に根差した高校として、未知の状況に対応する、確かな学力の育成

(1) 一人ひとりの進路目標を意識し、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力の育成をめざし、主体的・対話的・深い学び（アクティブラーニング）の視点からの授業改善に取り組む。

ア 相互授業公開や研究授業、ICT（タブレット型パソコンを含む）、中学校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成30年度65.7%）を毎年引き上げ、2021年度には70%にする。

イ 可能な範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。

※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（平成30年度35名）などの合格者は30名以上輩出する。

(2) 「ハートフルほいく専門コース」や地域交流・国際理解など本校の特色をさらに充実させる。

(3) ウェブサイトや学校通信などにより、本校の教育活動とその成果を発信し、開かれた学校づくりを更に推進する。

(4) インクルーシブ教育システムの更なる推進

高校生活支援カードの有効活用、校内支援体制の更なる充実、福祉医療関係人材、SC等との連携をより深め、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた切れ目のない支援の充実を図る。

2 思いやりの心と健康体力の醸成

(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」が理解できる人権教育を進める。

※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止にも繋げる。

(2) 健康体力を意識した取組みなどを推進する。

※健康月間週間の設置。

3 心安らげる安全で安心な学校づくり

(1) 規範意識をさらに醸成する。

ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的生活習慣を確立する。

※全学年年間遅刻件数（平成30年度9.4回/人・年、授業遅刻・トイレ退室等含む）を毎年徐々に減らし、2021年度には5回/人・年にする。
（平成30年度7.9回/人・年、授業遅刻）を毎年徐々に減らし2021年度には4.3回/人・年にする。

イ 広域生徒指導の定着を図る。

(2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された心地よい教育環境を維持する。

ア 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。

※有志による清掃活動参加率（平成30年度14.3%）を毎年増やし、2021年度には在籍生徒数の20%にする。

※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化・指導上）の為に総点検を実施し課題を抽出する。改善箇所は年間1000件をめざす。

イ 火災だけでなく、地震や津波などを想定した防災教育を積極的に行い防災意識を高める。

※予告なしの防災訓練やテロを想定するなど、訓練に工夫をこらす。※地域との連携を密にし精度の高い防災計画を作成する。

※メール・情報発信ツールの活用を充実させ生徒・教職員の安全確認に役立てる。

※防災に関するチェックリストを作成し、学校安全点検・非構造物の定期点検時に課題を抽出する。特に非構造物、災害備蓄品について重点的に
行い、非構造物は400ヶ所の改善、災害備蓄品については調達・運用・管理方法の設計を行う。

(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。

ア ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。

※部活動参加率（平成30年度39%）を引き上げ、2021年度には45%とする。

※ボランティア活動や体験活動への参加を奨励する。（平成30年12回）

(4) 学校組織力の向上を図る。

※SP会議（将来構想委員会）、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、フレッシュパーソンチューター会議などを充実させる。

4 人材の育成と管理

(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、インクルーシブ教育システム、教育相談など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。

(2) 働き方改革を推進する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○生徒アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】</p> <p>「よくあてはまる」及び「ほぼあてはまる」という肯定的な評価が7割以上を占める項目は、「自分のクラスは楽しい(81.7)」「自分は授業に集中して取り組んでいる(78.4)」「りんくう翔南高校では服装や頭髮の指導がきちんとされている(82.2)」「自分は校則やマナーを守っている(94.6)」「自分は、教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(74.2)」「自分は、学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(71.6)」であった。</p> <p>その中で「自分のクラスは楽しい」については、1年76.4%、2年82.6%、3年86.8%と学年を追うごとにポイントが上昇している。同様の傾向は「学校の授業は分かりやすい」にも言え、1年50.5%、2年69.7%、3年78.9%と向上しており、学校内での信頼関係が学年進行で向上していることが確認できる。</p> <p>昨年度アンケートより向上したポイントは「自分は校則やマナーを守っている(H30年度91.2→H31年度94.6)」「自分は教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(H30年度72.1→H31年度74.2)」であった。</p> <p>自分のクラスが楽しい、授業に集中しているなどの項目の肯定的意見が高いのは、学校生活が充実していると分析できる。</p> <p>一方、少数ではあるがクラスが全く楽しくない、授業が分かりにくいと答えている生徒の存在も否めず、今後も一層きめ細かな見守りが必要である。</p> <p>【2 評価が低かった項目】</p> <p>「あまりあてはまらない」及び「まったく当てはまらない」が多数となる否定的項目が高かったのは、「りんくう翔南高校の部活動は活発である(H30年度47.7、31年度46.4)」および「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と関わる機会が多い(H30年度42.5、H31年度40.3)」であり、昨年度と同様の傾向を示した。いずれも部活動に関わる項目である。これについては、今年度中学校を招いて「りんくう翔南杯」を開催したり、オープンスクールでクラブの体験入部を取り入れたりと、具体的な取組みを行っているが、効果は次年度に現れるものと考えている。</p> <p>また、「自分の興味・関心に応じて選べる選択科目が多い」の項目では、H30年度67.2%だったものが、H31年度59.1%と8ポイント下降した。これは、昨年度在籍していた最後の普通科総合選択制生徒が卒業し、専門コースを有する普通科の生徒が入学したためと考えられる。</p> <p>【3 その他】</p> <p>「地震・火災などの災害の時の避難経路を、具体的に教えてもらっている」という項目について、肯定的意見が平成30年度66.7%であったものが平成31年度54%と12.7%も低下している。この項目は教職員アンケート「この学校は、地震や火災などの避難訓練を十分行っている」という項目に対応しているが、教職員の肯定的意見は平成30年度97.1%、平成31年度96.3%とほぼ横ばいであり、大きな差が見られる。</p> <p>避難経路等については、4月に生徒に対して配布するとともに、教室に経路を掲示、さらに避難訓練で再度確認しているが、周知の方法について、今後、徹底できるようさらなる工夫をしたい。</p> <p>○保護者アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】</p> <p>今年度の特徴は、昨年度との比較で肯定的意見が減少した項目が少なく、全体として向上した。これまでの取組みから、学校行事の見学者(体育祭H30年度60名→H31年度100名、翔南祭H30年度85名→H31年度115名)も増加しており、保護者の学校に対する信頼は全体として向上している。これは、ウェブサイトの運用改善や、生徒主体の学校行事など様々な教育活動の活性化が背景にあると考えられる。</p> <p>「よくあてはまる」及び「ほぼあてはまる」という肯定的な評価が向上している項目は、</p> <p>「授業中に集中して取り組んでいるようだ(H30年度72.4→H31年度75.8)」</p> <p>「りんくう翔南高校では、服装や頭髮の指導がきちんとされている(H30年度82.4→H31年度86.6)」</p> <p>「子どもは校則やマナーを守っている(H30年度89.2→H31年度90.3)」</p> <p>「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に楽しんで参加している(H30年度74→H31年度80.5)」</p> <p>「子どもは教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている模様だ(H30年度73.9→H31年度79.9)」</p> <p>「子どもは、学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(H30年度65.1→H31年度68.8)」</p> <p>などが挙げられる。</p> <p>全体的な傾向としては生徒の結果とほぼ同様の傾向を示しており、家庭で</p>	<p>第1回【7月11日(木)15:00~16:30】</p> <p>○平成31年度(令和元年度)学校経営計画については、平成31年3月実施の協議会で承認済み。重点項目について、校長より説明。</p> <p>○運営協議員から質疑応答および意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の高校との交流(5月15日実施 台湾台東市国立関山高級工商職業学校、私立公東高級工業職業学校の来校)は大変良い取組みだ。他国の文化に触れるのは、海外の生徒を招くだけでなく、代表生徒を海外に派遣するのもいい取組みである。できれば多くの生徒を海外に派遣してほしい。(意見 学識経験者) 保護者としても代表団派遣は大変興味がある。G20で多くの外国人の人が来阪される年に実行するのはいい機会ではないか。(意見 保護者) レスリングの高校総体出場やバレーボール部の「りんくう翔南杯」をきっかけに、近隣中学校の交流につながるとともに、学校を知ってもらい、いいきっかけになったのではないか。(意見 地域住民・学識経験者) 進路指導に関わっていると、文部科学省の定員管理の厳格化から、大学・短大ともに合格が難しくなっている。さらに大学共通テストが実施されると、これまでのカリキュラムで勉強していた浪人生は不利になる。特に慎重な進路指導が今年度以降必要となる。(情報提供 教育関係者) 就職に関わっていえば、関西空港にもたくさんの卒業生が働いている。近所の携帯電話ショップや病院、会社事務などにも多くの卒業生が働いている。どのような企業が求人を出してくれるのか?(質問 地域住民) <ul style="list-style-type: none"> →求人をいただく企業には、泉南高校卒業生が多くいる企業が多い。他府県からも求人が来ている。ただ、新たな企業は内容が分かりづらいので、指導が大変。(進路指導部) PTAは和気あいあいとやっている。ほかの学校からPTAが楽しいからりんくう翔南に入れようかな、という話も伺う。そんな楽しい学校づくりを共にしていきたい。海外派遣事業について、G20が開催される今年、とても良い取組みだ。(意見 保護者代表) <p>第2回【11月5日(火)15:00~16:30】</p> <p>○今年度取組みの中間報告及び運営協議員の質疑および意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ハートフルほいくコースの希望者が次年度減少している。選択する生徒が進学するニーズとカリキュラムの整合性を新教育課程で検討していくべき。(学識経験者) 代表団海外派遣で、派遣できる生徒数が6名というのは少ないので、もっと多く派遣できるようにしてほしい(意見 地域住民・学識経験者) <ul style="list-style-type: none"> →本校は貧困率が府の平均より高い。今回の取組みは交通費・宿泊費の全額を同窓会に補助していただくため、現段階で人数を増やすのは難しい(応答 校長)。 実務英語技能検定や保育検定など、検定を受験するときに半額を財政的に支援しているというのはとてもよい取組み。どんどんやっていただきたい(意見 地域住民・学識経験者) 防災教育については、地域の小学校や中学校と連携すればもっと広がりのあるものになるので連携していきたい(意見 地域中学校代表)。 施設設備について、地域の中学校は校舎を新築し、大変きれいになっているが、りんくう翔南高校はどうか?(質疑 地域住民・学識経験者) <ul style="list-style-type: none"> →電子黒板等周年行事で設置し、さらに校長マネジメント経費で設置を続けている。ブロック塀については、現在フェンス化の工事を実施しているが、予算上の問題からなかなか大規模なのは難しい(応答 事務長)。 <p>第3回【3月17日(火)実施】</p> <p>新型コロナウイルス感染症に係る対応のため、文書による開催とする。</p> <p>運営協議員全員が平成31年度学校経営計画及び学校評価、令和2年度学校経営計画についてご承認をいただいた。</p> <p>【各委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在は大変な状況ですが、これが落ち着いたら、次は大阪府が大きくかわることになる2025年の万国博覧会及びその基本理念たる“SDGs”を視野に入れた取組みを期待するところ。(学識経験者) 平成31年度の取組みは、順調で好結果を残している。特に夏期自主勉強会への参加と国際理解教育委員会(台湾派遣)SORAプロジェクトなど素晴らしい成果である。また、ライデンシステムの構築・整備や施設1000ヶ所の改善を実施する等、まさにチーム翔南としての組織力が発揮されている。令和2年度の計画、大変良いと思う。本年同様のチャレンジ精神を期待する。(地域住民、学識経験者) たいへんきっちりとして学校経営がなされていますので感心いたします。参考にさせていただきます。(教育関係者、中学校校長) ずっとこの地域に住む者として、貴校が果たしてこられている実績に大変感謝しております。りんくう翔南高校の卒業生は、地元に残り地域を支える人です。その将来の土台を作り上げる大切な高校生活がより充実したものとなるように、今後ともよろしく願います。(地域住民)

学校のことを話す機会が多いものと考えられる。

【2 評価が低かった項目】

「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」などの否定的意見が過半数を占める項目はなかったが、「りんくう翔南高校の部活動は活発だと思う(52.4)」「学校で授業や部活動で地域の人と関わる機会がある(50)」が他の項目と比較して低位であった。

【3 その他】

昨年度に比べて上昇した項目として、「PTA活動は活発であると思う(H30年度 63.9→H31年度 68.0)」があげられ、PTA行事の前にメール配信サービス等を活用したことや、会長のご尽力により広報が着実なものとなり、評価が向上したと考えられる。

○教職員アンケート

【1 評価が高かった項目】

「よくあてはまる」及び「ほぼあてはまる」という肯定的な評価が8割以上を占める項目は、

「生徒は学校生活を楽しんでいると感じる(96.4)」

「生徒はあなたの授業を理解している(88.5)」

「この学校の生徒指導はきちんとしている(96.3)」

「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる(92.6)」

「教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるように配慮している(81.5)」

「この学校は地震や火災の避難訓練を十分に行っている(96.3)」

「生徒指導において、組織的に対応できる体制が整っている(88.9)」

「問題行動の防止のために早期指導に学校全体で取り組んでいる(88.5)」

「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており迅速に対応することができている(92.6)」

という項目であった。

【2 評価が低かった項目】

「あまりあてはまらない」「全く当てはまらない」という否定的評価が過半数を超える項目は、「実力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立っている(肯定 35.7)」「この学校は、授業や部活動、ボランティアなどで地域の人と関わる機会を多く持っている(肯定 44.4)」であった。

【3 その他】

昨年度と比較して向上した項目は「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる(H30年度 81.8→H31年度 92.6)」と向上した。平成31年度は、多くの教育相談事例があり、教職員の中で、教育相談体制に対する意識の向上が見られる。また、「学校として部活動の活性化について工夫している(H30年度 42.4→H31年度 63)」と向上した。りんくう翔南杯の実施やオープンスクールでの体験入部など、具体的な動きを行ったことが意識の向上につながっている。また、「自分は、PTA活動に積極的に参加している(H30年度 47.1→H31年度 53.6)」も向上しており、体育祭や翔南祭等での保護者の来場者の上昇が、教職員の意識向上につながったと考えられる。

一方、生徒と教職員の意識を比較してみると、授業に関わって、生徒側「学校の授業は分かりやすい」が65.7%であるのに対して、教職員側「生徒はあなたの授業を理解している」が88.5%となっており、授業の理解に関しては、22.8ポイントの差がある。教職員と生徒の意識の差については、一層コミュニケーションを深めることが今後の課題である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>一 地域に根差した学校として、未知の状況に対応できる、確かな学力の育成</p>	<p>(1) 主体的・対話的・深い学び（アクティブラーニング）の視点からの授業改善。</p>	<p>(1) ア) 授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 イ) アクティブラーニング等の授業手法の研究実践。 ウ) 授業改善や進路指導のためICT機器の利用拡大。【ICT機器（電子黒板）の設置】 エ) 進路指導部による基礎学力の定期的な測定【教育産業による学力分析システムの活用】 オ) 高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応した、活動記録シート（ポートフォリオ）の充実 カ) 進路実現に向けた外部模試の有効活用 キ) 定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携による特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実 ク) 大学・短大・専門学校との連携推進 ケ) 国公立大学や難関大学合格実績の継続 コ) それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識）</p>	<p>(1) ア・イ) 授業アンケートの結果平均を昨年度並みとする。(H30:3.22) ア・イ) 学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。(H30:65.7%) ウ) 電子黒板を6～7台設置する。 オ・ケ) 国公立大学や公務員合格を絶やさない。(H30:2人) エ・カ) 外部模試受験者数を増加させる。(H30:23人) キ) 英検受験者数を増加させる。(H30:13人) オ・ク・コ) 進路未決定者（進学浪人を含まず）を減少させる。(H30:3.6%) キ) 夏期自主勉強会参加生徒数を増加させる。(H30:84人)</p>	<p>(1) ア・イ・ウ) 授業アンケート結果については、28年度(3.11)29年度(3.17)30年度(3.22)31年度(3.18)と安定した結果を維持している。教職員の授業力に対する意識や意欲の向上、振り返りシートの刷新、電子黒板の設置、目標設定面談時における授業力の向上に対する動機づけ、教職員研修の充実、職員会議などにおける教育情報の提供、生徒との信頼関係の構築などが安定した数値結果の主な要因と捉える。現状に留まることなく、社会の加速的な変化を見据えICTの活用を更に活性化させるなどし、主体的・対話的・深い学びの実現に向かいたい。※事務室の努力により1年生・2年生合計12クラスに電子黒板の設置を完了した。教科指導は言うまでもなく全教育活動を通してICT活用を充実させたい。(○) ア・イ) 学校教育自己診断の結果、授業満足度が65.7%と昨年度同様の結果であった。様々な工夫を凝らし、ますます上昇させたい。(○) エ・オ・カ・ケ) 志を立て計画的にチャレンジすることを折に触れ生徒達に訴えた。結果、公務員合格者数は2名、外部模試受験者数は31名、英語検定受験者数は32名、保育検定79名、ワープロ検定68名、情報処理検定71名、書道検定15名となった。外部模試受験者数、英語検定受験者数、様々な資格試験受験者数などは増加し、生徒のチャレンジ精神が向上している。今後も無限大の可能性を訴え続け、チャレンジ精神の汎用に努めたい。(○) キ・ク) 夏期自主勉強会への参加生徒が206名となった。昨年84名から大幅に増加した。生徒に対して、分掌・学年・担当教員などがきめ細かく寄り添った結果、生徒の学習意欲の向上が確認できた。今後も寄り添う姿勢を継続し、夏期自主勉強会の更なる充実に向かいたい。(○) キ・コ) 進路未決定者が0.5%と減少した。(○)</p>
	<p>(2) 特色ある教育活動の充実</p>	<p>(2) ア) グローバル人材育成のため、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化 イ) 国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保【国際交流代表団の派遣】 ウ) 指定校推薦やAO入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大 エ) ハートフルほいく専門コースの検証</p>	<p>(2) ア・イ) 国際交流代表団の派遣 イ) 中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を昨年並みとする。(H30:延86校+校長独自30校 私塾訪問22校) ウ) 公募制推薦入試等合格者数を増加させる。(H30:13人)</p>	<p>(2) ア・イ) 台湾：国立関山高級工商職業学校、私立公東高級工業職業学校来校(05/15)並びに、同窓会との連携にてりん翔SORAプロジェクトを立ち上げ、代表生徒を台湾に派遣した。【新北市私立樹人高級家事商業職業学校との交流並びにアクティブラーニング型地域探求の実現(31.12/24～12/26の間:12/25に学校訪問)】※帰国した代表団からは達成感が溢れていた。後日の校長への報告会では代表生徒より「英語の大切さを感じた」などの報告があり、派遣事業は成功であった。全体への事後報告会を通して学校全体のグローバル化に繋がることを確信した。 ア・イ) OFIXとの連携で講師を招き国際理解教育を実施した。 これらの取り組みは、グローバルな人材育成、学校全体のグローバル化、個々のキャリア教育などにも連動し、生きる力を育む意味で大変意義深い。今後も発展的に継続させたい。(◎) イ) 生徒獲得に向け、中学校訪問：校長独自(29校)、教職員による中学校訪問(延85)塾訪問(22校:1/10現在)など精力的に働きかけた。今後とも、地域に開かれた学校づくりのため発展的に継続させたい。(○) ウ) 公募制推薦入試等合格者数は19名となり昨年度より増加させた。(○) エ) ハートフルほいく専門コースについては、志望者の拡大をめざし、自らの進路に関連づけるだけではなく、生涯を通して、子どもと触れ合うことの意義や、親としてのあり方など、より良い社会を築くための基礎・基本を学ぶ場とし、ますます奨励したい。</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>(3) 教育活動とその成果を地域に発信</p>	<p>(3) ア) 授業公開の充実 イ) 学校行事への地域住民の参画、連携 ウ) ウェブサイトの充実と教育活動通信等の作成、配布 エ) 地域イベントへの積極的な参画 オ) メールマガジンによる情報発信</p>	<p>(3) ア) 外部への授業公開を例年並みとする。(H30:3回) イ) 学校説明会申し込み中学生数を増加させる。(H30:302人) イ) 体育祭、翔南祭への地域住民の参画奨励(H30:相手方事情により不参加) イ・エ) 地域連携活動の活性化を図る。(H30:25回)</p>	<p>(3) ア) 授業公開は3回実施した (○) イ・ウ) 校長による中学校や教頭・首席による塾へのトップセールス、ドローン活用による学校PR動画の作成及び上映、チラシの作成等、あらゆる手段を活用し、学校説明会の参加者数を平成30年度223名から令和元年度356名へと増加させた。 1回—213 2回—107 3回—36 計356 (◎) イ) 体育祭への関係保護者の参加者数が100名となり、昨年60名を大幅に増加させた。(◎) イ) 翔南祭へ地域の老人ホーム(すみれ会)をお招きしたが、都合により来校されなかった。(△) ウ) 校長ブログの更新は43回と昨年並みであった。(○) ウ) ウェブページの新着情報を活用し、校長ブログの更新を明確にするなど、ウェブサイトを更新した。(○) ウ) 保健室だよりを例年並みにウェブサイトに掲載し、教育情報の提供とともに生涯を通じた健康への意識の醸成に努めた。(○) エ) 地域連携活動参画数は37回となり、昨年度25回を大幅に増加させた。(◎) オ) メール一斉配信ライデンメールシステムを随時有効活用し、40通の情報発信を行った。加入者も4月現在534人であったのが、841人に増加し、教育情報並びに緊急避難や防犯意識の醸成に役立った。(○) 地域に信頼される学校の基盤を強固にするため、引き続き発展的・効率的な広報活動並びに地域連携活動を継続させたい。</p> <p>(4) ア) クラス編成時、問題事象、虐待事象、いじめ事象発生時、日常の教育活動などにおいて有効に活用した。(○) イ・ウ) 「インクルーシブな学校づくり」～多様なニーズのある生徒の理解と支援について～など、大学より講師を招き教職員研修を実施した。事後アンケートの結果、教職員の受け止めは5段階中4.6と高い肯定ポイントであった。その他、障がいのある当事者を講師として招き、1・2年生徒向け講演会など(少数であるが保護者も参画)を多数開催した。事後アンケートの結果、生徒の受け止めは「理解できた」「とても興味をもった」という肯定的評価が8割を超えた。(◎) エ) 翔南祭において、支援学校(すながわ高等支援学校)に作品展示にて参画いただいた。(○)</p> <p>今後も共に助け合い、支えあって生きていくことの大切さを学ぶ機会の確保、特別支援教育担当からの研修報告(本年度2回)などを充実させるなどにより価値の変容や多様性への対応力を育み、共生社会を実現させるためインクルーシブ教育システムの更なる充実に向かいたい。</p>
<p>(4) インクルーシブ教育システムの推進(共に生きる教育の推進)</p>	<p>(4) ア) 高校生活支援カードの有効活用 イ) 専門家との連携 ウ) 研修及び研修報告の充実 エ) 交流及び共同学習の推進</p>	<p>(4) ア) 高校生活支援カードを有効活用する。 イ・ウ) 研修及び研修報告会を開催する。 エ) 支援学校との交流を推進、発展させる。(H30:翔南祭での作品展示)</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">二 思いやりの心と健康体力の醸成</p>	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p>	<p>(1) ア) 志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動の実施 イ) 生命の尊さなどを問う人権教育の実施 ウ) 全教育活動を通して、生徒の人間関係の変化等を見逃さず、機を逸することなく修学支援委員会・いじめ防止対策委員会等を開催し、チームとして対人関係に起因するトラブル等の未然防止及びその解決に向かう</p>	<p>(1) ア) 学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見）を昨年度より上昇させる。（H30:84%） イ) 人権テーマを扱ったHRや職員人権研修を例年なみに実施する。（H30年:生徒8回・教職員4回） ウ) 対人関係に起因するトラブル(いじめの可能性の疑いがある事象)については期を逸することなく指針に沿い組織として対応する。（H30:5件）</p>	<p>(1) ア) 学校教育自己診断における【自分のクラスは楽しい】が81.7%と若干下降した。今後、生徒理解により務めるなどし、肯定意見を上昇させたい。（△） イ) 人権研修：生徒、保護者対象8回、生徒対象2回、教員対象4回と昨年並みの開催数となった。特に、生徒対象の【障がい者理解研修】10/3開催においては、「とても興味をもった：93%」「少し興味をもった：7%」【LGBT理解教育】10/17開催においては、「とても興味をもった：85%」「少し興味を持った：15%」と良好な結果を残している。教職員も学ぶ機会となった。（◎） ウ) 道徳教育や総合的な探求の時間については、「いじめの防止」に向け生命の尊さなどを問う人権教育をシラバスに導入した。（○） ウ) 対人関係トラブルは機を逸することなく【いじめ防止対策委員会】にて検証し、対応した。委員会の開催は11回であった。重篤なトラブルは0回であった。（○） 今後も関係法令を踏まえ、「生きる力」を育む基盤である人権尊重の教育を全教育活動を通して計画的且つ総合的に推進し、人権が大切にされた共生社会の実現をめざしたい。</p>
	<p>(2) 健康体力を意識した取組</p>	<p>(2)ア) 健康月間の設置</p>	<p>(2) ア) 校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。</p>	<p>(2) ア) 生徒保健委員会が中心となり、歯磨き月間を設置する等、歯の健康に対する研究を深めた。歯磨き月間では保護者との連携で歯磨きセットを全校生徒に配布し、食堂入り口付近に歯磨きスペースを設置しマウスウォッシュの使用とともに歯磨きを啓発した。結果、令和元年大阪府学校歯科保健研究大会にて、「大阪府よい歯・口を守る学校・園表彰事業」にて大阪府教育委員会賞を受賞した。今後も歯の健康のみならず、健康体力に関する取組を推進し、生涯を通じた健康への意識を醸成したい。（◎）</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 社会構成員としての自覚を高める。</p> <p>(2) 「美化意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。」</p>	<p>(1) ア) 全校一斉服装頭髪指導を充実させ規範意識を高める。 イ) 広域生徒指導を定着させる。 ウ) 式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。</p> <p>(2) ア) 事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 イ) 事務室等との連携により防災意識の向上を図る。 ウ) 地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。 エ) メール、情報発信ツール活用の充実を図り、教育情報の発信とともに災害時における生徒及び教職員の安全確認に役立てる。 オ) 学校内外における美化活動及び清掃活動の充実。 カ) 生徒保健委員会の活性化による生徒の健康意識の増進。 キ) 喫煙防止・性感染症防止・薬物乱用防止教育の更なる推進。 ク) 憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備。</p>	<p>(1) ア) 停学を伴う特別指導案件数を昨年度なみとする。(H30:26件、54名) ア) 全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年度並とする。(H30:7.9回) ア) 退出等含む合計を昨年度並とする。(H30:9.4回)</p> <p>(2) ア) 施設、設備の機能をより強化する。年間1000件の改善をめざす(H30:1395ヶ所改善) イ・ウ・エ) メール、情報発信ツール活用の充実に努める。(H30:教育情報の発信のみ) イ) P T Aとの連携で防災グッズや避難準備物の購入費を捻出する。 オ) 有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の15%にする。(H30:14.3%) キ) 喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き実施し肯定率を維持する。(H30 肯定率:喫煙防止教室 99.6%、性感染症防止講演 91.8%、薬物乱用防止教室 92.2%) ク) 噴水の清掃を6回行う。</p>	<p>(1) ア) 特別指導案件は18件、26名であった。安全で安心な教育環境が維持できているか否かを数値で判断するのは困難である。客観的な参考数値として捉えたい。今後も、教職員が率先垂範で日々正しく生きる姿勢を示すと共に、寄り添う姿勢とカウンセリングマインドを持って客観的な参考数値ではあるがその減少に向かいたい。(○) ア) 遅刻件数、生徒一人あたり平均7.7回、退出等も含む合計、生徒一人あたり平均10.9回。(○) ア) 社会生活と関連づけながらチーム翔南として粘り強い支援を施し、社会構成員としての自覚を高めたい。 イ) 生徒、保護者、地域警察署、教職員の連携・協働による広域生徒指導（地域清掃活動並びに下校の見守り、他）を昨年度並み実施することとし、7/16、12/13の両日に実施した。清掃活動によるボランティア精神の醸成・保護者による下校生徒の見守り、12/13には生徒会役員生徒が特殊詐欺撲滅のチラシを配布するなど、トータルに地域からの信頼が確立されつつある。今後ますます発展的に継続させたい。(◎) ウ) 式典に臨む生徒が自主的に集合できるように導き、式典に臨む生徒の態度は万全であり儀式的行事感が育まれている。(○)</p> <p>(2) ア・ク) 事務室との連携を深め、年間約1000ヶ所の改善を施した。中庭（噴水）についても年間6回の清掃を施し、生徒から「ありがとう」と感謝の声掛けがあった。今後も施設、設備の適正な維持管理に努めたい。(◎) ア・イ) グランド周辺の夾竹桃76株が歩道に飛び出ることとなるため（夾竹桃には強い毒がある）、すべての株に除草剤を注入して枯らし、安全確保を図った。(○) イ・エ) 災害発生時における迅速な安否確認のため、情報発信ツールを充実させた。加えて、防災避難訓練時に発信のための訓練を実施し登録を奨励した。結果、登録者数が4月初旬534名から841名と大幅に増加した。今後は100%の登録をめざすとともに、発信ツールを所有しない生徒、保護者への対応を考察したい。同時に、本年度は備蓄品の配備も完了させた。今後、保護者・地域・関係機関との連携協働をより深め、ますます防災対策並びにその意識の向上に向かいたい。(◎) イ) 消防署や消防設備業者と連携し、本校の避難経路の脆弱な部分を整理し、改善工事を行い、大規模な予算を必要とする工事案件は施設財務課へ整備依頼を行った。また、防火扉の運用方法を職員会議で周知するなど、職員の防災意識の向上に努めた。(○) イ) 災害に備えた生徒用備蓄品の購入が完了した。(○) ウ) 地域にある浜保育所が、津波に対する避難訓練で本校の駐車場を活用した。(11/15) 今後も地域と共に防災意識の汎用に向かいたい。(○) オ) 有志による通学路清掃への参加者は【7月:97名、12月:83名】在籍に対する割合は13.5%であり下降した。全教育活動をととしてボランティア精神を育むとともに、企画に対する早期よりの声掛けなどを充実させポイントの上昇に向かいたい。(△) カ) 令和元年大阪府学校歯科保健研究大会にて、「大阪府よい歯・口を守る学校」として表彰対象となり、大阪府教育委員会賞を授与されたことを起爆剤とし、生徒保健委員会などの取り組みを更に活性化させたい。(◎) キ) 喫煙防止教室95%、性感染症防止教室98%、薬物乱用防止教室98%といずれも高い肯定率であった。今後も講師並びに日程を精選しより効果的な教室を開催したい。(◎)</p>
-------------------------------	--	---	--	---

府立りんくう翔南高等学校

<p>三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(3)「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」 (4)「組織の充実と活性化」</p>	<p>(3) ア) クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動の活性化及びボランティア活動の充実 イ) 地域中学校との交流の推進 ウ) 生徒主体の体育祭・翔南祭など学校行事の充実</p> <p>(4) ア) S P会議（将来構想委員会）国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、フレッシュパーソンチューター会議等の充実、学習発表会の刷新、定例学年団会議・学年主任連絡会等の更なる充実、首席の位置づけの明確化、等 イ) 学習指導要領の改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価方法の検証</p>	<p>(3) ア) 部活動加入率を40%台とする。(H30:39%) ア) ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動の活性化を図る。 イ) 部活動について、中学校との連携をより深める。(H30:交流5回)</p> <p>(4) ア) チーム翔南として組織力を向上させる。</p>	<p>(3) ア) ボランティア活動や体験活動は11回と充実している。更に充実させ思いやりの心を育みたい。(○) イ) 中学校との合同練習会の開催、りんくう翔南杯バレーボールの部の開催など、クラブ活性化担当を中心に精力的に取り組んだ。クラブ加入率は33.8%で下降しているが地道な取組みが学校運営協議委員や地元中学校長などより取組みに対して称賛いただいております。今後の成果に期待したい。(△) ウ) 学校行事への保護者・地域住民の参画の増加と、生徒アンケートの肯定的意見増加をめざし、団体対抗形式、応援合戦などを導入するなど生徒主体の体育祭へ刷新した。結果、保護者など来校者数が昨年度60名から本年度100名に増加した。加えて翔南祭においても昨年度85名から本年度は115名と増加した。更に学習発表会後の生徒アンケートの肯定意見は95%をしめた。学校力の向上へと繋がっている。今後ますます発展的に継続させたい。(◎)</p> <p>(4) ア・イ) 学年団会議や学年主任連絡会の開催回数の増加、学習指導要領改訂に対応した内規の見直しへの着手、S P会議の充実(中学生数減員への対応の検証など)、特別指導案件への柔軟な対応、いじめ事象への対応の充実、合理的配慮への対応の充実、部活動活性化への検証など組織力が定着されつつある。今後ますます向上させたい。(○)</p>
<p>四 人材の育成と管理</p>	<p>(1)人材の育成と管理</p>	<p>(1) ア) ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を実施し教職員の力量を高める。 イ) 働き方改革推進のため週1回の定時退庁日(水曜日)に加え、月1回の定時退庁日(スーパープレミアムフライデー:最終週の金曜日)を設置する。同時に、月間超過勤務対象者には都度理由書を提出させる。</p>	<p>(1) ア) ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。(H30:14回)校長推薦や人権研修含む。 イ) 月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。(H30:8名、12回)</p>	<p>(1) ア) 大学等より講師を招き、様々な教職員研修を(16回)実施した。都度アンケートをとり教職員の受け止めなども確認できた。肯定意見の増加、参加者数の増加など総じて学ぶ意欲の向上が確認できた。今後も変化に対応した学びを生徒達に提供するため、効果的な研修を開催したい。(◎) イ) 月間超過勤務80時間以上の延べ人数は5名、延べ回数は9回であり若干下降した。理由書導入などの効果と捉える。今後も働き方改革をより推進したい。(○)</p>